

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入検討会(第1回)議事録

【日 時】平成 25 年 7 月 16 日(火)17:00~18:00

【場 所】合同庁舎第 3 号館 4 階 総合政策局局議室

■意見交換内容

(深澤技術審議官)

検討にあたってはシーズとニーズの把握が重要となってくる。ニーズとマッチするところを重点化し、その効果を世間に分かって貰うことが大事。

(宮川製造産業局長)

経産省のこれまでの取組成果を鑑みても、ニーズの把握が重要と考えている。ニーズを把握しなければ、性能の良い製品を開発しても現場で使用してもらえない。

(西脇総合政策局長)

社会インフラの点検について、いつまで古い人海戦術をしているのかという声を度々聞いているところ。示されたスケジュールにある H29 からの本格導入では遅いのではないかと。

(宮川製造産業局長)

すぐに成果が適用できる分野については、当然可能な限り早く現場で適用できる技術を導入すべきと考える。

(須藤産業機械課長)

介護ロボットについても、通常 3 年の開発期間を設けているが、現場に早く導入できるものについては前倒しで導入するようにしている。

(深澤技術審議官)

介護ロボットについては大分以前から研究開発をされていたのか

(須藤産業機械課長)

重点分野の策定は昨年度行っており、一年前のこの時期から検討を開始し、11 月に策定している。

(宮川製造産業局長)

介護分野は人命に関わる分野であることから、ロボット技術の導入には慎重になる面がある。現場での検証結果を踏まえなければ導入は難しい。

(安藤公共事業企画調整課長)

開発スケジュールについて、H26、H27 と順に記載しているが、それぞれの段階でフィールドでの検証結果を基に開発を行っていく。

(宮川製造産業局長)

開発で終わることなく、普及促進することで、コストも下がり、改良も進み、効果も大きくなる。

(西脇総合政策局長)

災害対応ロボットについては公共調達を想定しているため、必ずしも普及によるコスト低下を期待するものではないが、効果の向上は必要。

(深澤技術審議官)

ニーズとシーズは共に重要で、ニーズについては、国土交通省として多くの現場を管理している立場からも、しっかりと伝えていくことが重要